

母の日の感謝伝えるカーネーション 全国有数の産地・西尾市で出荷ピーク



JA選花場での出荷作業



農家による収穫作業

JA西三河管内の愛知県西尾市で、5月12日の母の日に向けて、カーネーションの出荷が最盛期を迎えます。西尾市は年間生産量2,460万本と、日本でもトップクラスのカーネーション産地（市町村単位）です。

今年の出荷ピークは5月1日から10日にかけて。この間に、JA西三河の営農センター3か所では合計で約100万本を出荷します。また、個々のカーネーション生産者も盛んに収穫・選花を行い、市場へ出荷を行います。

■メディア対応日■

【日時】4月25日（木）（収穫風景）午前8時30分集合（選花風景）午前10時30分集合

【集合】JA西三河 池田センター

（西尾市一色町池田西八反21 0563-72-9533）

※ 池田センターでの選花のほか、農家（一色町）でのカーネーション収穫の様子をご覧いただけます。

収穫風景を取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の岡田まで前日までにご連絡ください。なおご連絡のない場合、生産現場へご案内できかねる場合がございますのでご了承ください。

■今年のカーネーションの作柄・情勢見通し（4月上旬現在）

7月から8月の高温・12月頃の低温の影響で2018年内は伸び悩みましたが、年明けからは十分な日照量と温暖な気候により持ち直し、順調に出荷量が伸びました。需要ピークに合わせた輸入ものの動向は懸念材料ですが、4月以降も日照量に問題なければ例年並みの出荷量となりそうです。

また今年は、改元・新天皇即位による祝賀ムードの高まりやイベント・記念日の需要から、5月1日前後の需要が伸びるのではないかと見通しています。



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河（西三河農業協同組合）

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当：岡田

TEL：0563-56-5214 担当者携帯：070-1414-4251

HP：https://www.ja-nishimikawa.or.jp/ Eメール：kikaku@ja-nishimikawa.com

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループ愛知記者会あてに発出しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料（ニュースリリース）」ページにも掲載しています。

西尾市のカーネーション生産の概要

～「母の日」がピーク！ 日本有数の大産地～

■全国有数のカーネーション産地・西尾市

西尾市内では48人の農家が21.1%でカーネーション栽培に取り組み、年間で約2,460万本のカーネーションを生産しています（平成28年、愛知県調べ）。かつて市町村別生産日本一を誇った一色町地区を中心に、吉良町地区・小栗町周辺で生産が行われています。

西尾市では、カーネーションを加温したハウスの中で生産しており、概ね9月下旬から翌6月上旬まで出荷が行われます。最大のピークは「母の日（5月第2日曜日）」前の約2週間です。



J Aの選花場で、パート選花員がカーネーションの選別を行う

■J Aによる販売力強化の取組み

共選部会（※）では昨年度より、市場への前々日出荷（競り前々日に商品が市場に到着する）の取組を行っています。これは通常の出荷（競り前日に市場到着）よりも商品が1日早く市場へ届くようにするもの。遠方の買参人も商品情報が把握でき、相対取引を行うことが容易になります。この取組をカーネーションの販路拡大や価格安定につなぎ、農家の所得向上をめざします。

また共選部会では、取扱市場の担当者を招いた圃場視察を行うなど情報交換につとめています。

※J A西三河カーネーション部会（花みらい）、小栗カーネーション部会の西尾市内の共選部会と、知多フロリーダ（知多半島のカーネーション共選部会）の3部会が共同で取り組んでいる

■人気の品種

カーネーションのうち通年で人気が高いのは「ピンク」ですが、母の日前に需要が高まるのは「赤」。定番として「エクセリア」が長年支持されているほか、最近ではローズ系品種「セレッソ」の人気が高まっています。



近年人気の「セレッソ」

■「共選」と「個選」、その出荷形態

西尾のカーネーション農家には、出荷形態として「共選」と「個選」の2種類に分かれ、それぞれのメリット・デメリットを考慮しつつ農家が経営を選んでいます。

「共選」の農家は、J A西三河のカーネーション部会に所属し、部会内で共通の規格・品種を定めて出荷を行っています。西尾市内には小栗カーネーション部会（小栗町周辺の生産者が所属、部会員7人）・J A西三河カーネーション共選部会（愛称：花みらい）（一色町・吉良町の生産者が所属、部会員9人）の2つの部会があります。部会を通して出荷を行うことで、農家にとっては選花の手間を減らし、生産に集中することができるほか、ロットを大きくした有利販売を行うことができ、部会名のブランドを使うこともできます。いっぽうで選花などにかかる部会費を払う必要があります。

「個選」の農家は、自分たちの生産したカーネーションを自ら選別・箱詰めし、市場へ出荷しています。品種や出荷する市場を自分で選ぶことができ、自らのこだわりの商品を出荷できます。その反面で選花・箱詰めや市場へのPRを自ら行う必要があります。

（全国の生産概況）（平成29年度）

全国のカーネーション出荷量：2億4020万本

愛知県のカーネーション出荷量：4,180万本（全国2位、1位は長野県（4,910万本））

データ：農林水産省 作況調査（花き）平成29年度確報